

希望分野に合わせて、必要な科目の基礎を総復習 - 抜け漏れに気付かせ、学習を深める動機を作る -

群馬県立 吾妻中央高等学校

テーマ

▶ 入試対策

目的

▶ 受験科目の総復習



木村 桃子先生（国語科）

群馬県立吾妻中央高等学校では、進路活動に役立てるため、幅広い教科の課題をスタディサプリで配信。クラス担任をしながら、国語科を担当する木村桃子先生に、その目的や内容を具体的に伺いました。

「この取り組みをはじめたきっかけ」

当校は普通科が1学年に2クラスで、勉強が得意な生徒と苦手な生徒の学力差が顕著です。そのため、足りない部分は生徒が自主的に補えるといいなと思っていましたので、2022年にスタディサプリを導入してみました。3年生の始めに面談を行い、進路の希望を聞き取るのですが、生徒たちの希望は大学・専門学校への進学や就職など、さまざまです。2学期には本格的に希望が固まって、自分で学習計画を立てる生徒が増えてきますので、その前に、個々で復習できる環境を整えたいと考えました。そして、進路に合わせた学習のペース作りができるように、1学期から夏休みが終わるまで、20分間程度でできる課題を継続的に配信するようにしました。

前年に群馬県の高校へタブレットが導入されたこともあり、校内のICT化はスムーズでした。生徒にいたっては教師以上にパソコンやスマホに慣れているので、無理なく始められた印象です。

「実際の取り組み」

最も自宅学習に取り組んでほしい夏休みの終わりをゴールに据え、計画的に配信をしました。教科は国語だけでなく英語、数学、生物、化学などまんべんなく網羅し、「自分に必要な課題を選んでやりましょう」というスタイルです。

当校では2年生から理系クラスと文系クラスに分かれますが、後から進路の希望が変わって基礎科目で受験するパターンもあります。なので、最初に生徒から学習したい教科を募ってスタディサプリのクラスを作り、曜日を決めて配信する形を取りました。

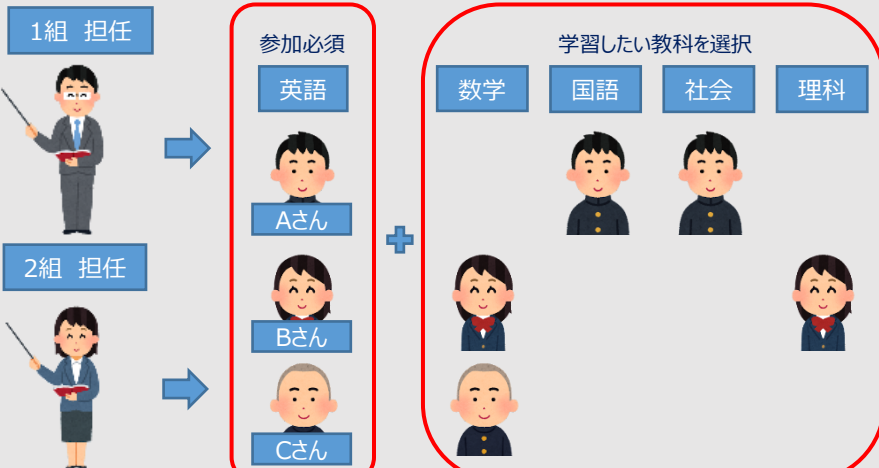
教科の選択は生徒の任意ですが、英語だけは全員必須の課題としました。クラスの模試の結果を見ると、前年に比べて英語が苦手な生徒が多い印象があったのです。中学時代の苦手を引きずっていたり、学んだことを忘れていたりするようだったので、それらの英語の抜け落ちている部分は早い段階で力を入れておこうと、同学年の担任の先生と話し合ってお方針を決めました。国語の漢文や古文は入試で使わない場合もありますが、英語は必須の場合が多いですし、これからの社会で英語の知識はあるに越したことがない、という理由もあります。

「生徒の変化感」

「中学時代に勉強したはずだけど、やっぱり忘れていた」という声は生徒からもありました。元々、課題の提出率は悪くありませんでしたが、深追いして学ぶ習慣までは身についていませんでした。その点、スタディサプリは教科ごとに体系立てて作られているので自分が理解できなくなったりポイントまで遡ることができ、生徒が自ら足りない部分に気づくことができましたという効果はあったように思います。また、スタディサプリでは誰が、何を、どれ位勉強しているか可視化され、生徒とのコミュニケーションのきっかけにもなっています。課題をやれていない生徒に声をかけることで、提出にもつながっているのだからスタディサプリを通して学習する時間を持つようになるのではないかと思います。

実際の取り組み

入試に向けたアンケートを4月に取得
必要な科目のみ履修するクラスに参加



群馬県立吾妻中央高等学校



【学校情報】
2018年、旧中之条高等学校と旧吾妻高等学校が統合されて設立された新しい学校です。4つの学科がそれぞれ特色ある教育を実践し、様々な成果を上げています。今年度で新制創立5周年となり、旧両校の魅力が継承され、また融合し、さらに発展して魅力ある「あがちゅう」になっています。